

### 1. 実況上の着目点

① 500hPa -36°C以下の寒気を伴う 5160～5220mのトラフに対応して、日本海にある低気圧が発達しながら北東進。上空寒気の影響で大気の状態が不安定となっており、西～北日本では1時間おおよそ10mmの雨量を解析、雷を検知。北海道地方では、3時間に30cm以上の降雪を観測。

② 伊豆諸島周辺～日本の東は、地上の気圧の谷となっていて、大気の状態が不安定となっている。伊豆諸島南部～関東の東では1時間おおよそ5mmの雨量を解析し、雷を検知。

③ ①の低気圧と大陸の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、全国的に強い風が吹いて、波が高くしけとなっている所がある。

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、4日は急速に発達しながら北海道の西をゆっくり北北東進し、5日は北海道地方を東進しながら次第に不明瞭となる。

② 500hPa -30°Cの寒気を伴う 5340～5400mのトラフに対応して、4日朝までに三陸沖に低気圧が発生する。三陸沖の低気圧は、発達しながら4日夜には千島近海に北東進し、5日は500hPa 5100m付近の寒冷渦と連動して、オホーツク海～サハリン付近へ進む。5日以降、日本付近は強い冬型の気圧配置となり、東～北日本には500hPa -39°C以下の強い寒気が流入する。また、4日朝までに日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）が形成され、6日にかけて北陸地方を指向する。このため、日本海側を中心に雪雲が発達し降雪が強まり、大雪となる所がある。西～北日本では、6日にかけて大雪による交通障害に警戒し、着雪やなだれに注意。

③ 2項①～②の低気圧や強い冬型の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなり、強い風や非常に強い風が吹いて、波が高くなり大しけとなる所がある。北陸地方と北日本の日本海側では6日にかけて、暴風雪や高波に警戒。全国的に6日にかけて、強風や風雪、高波に注意・警戒。

④ 2項①～②の低気圧及びJPCZ周辺では上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。西～北日本では6日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

### 3. 数値予報資料解釈上の留意点

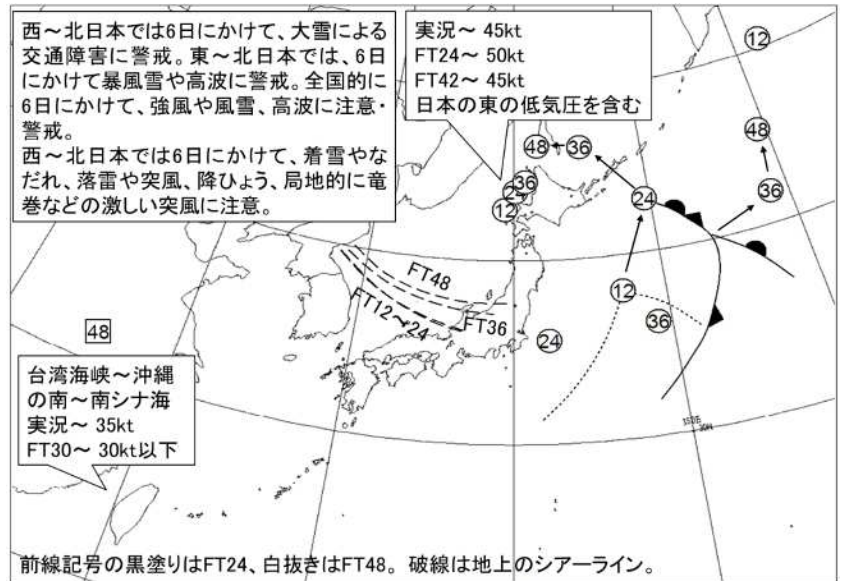
総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

### 4. 防災関連事項【量的予報等】

① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：北陸100、東海80、東北70、近畿60、北海道・中国50、関東甲信40、九州北部・四国30、九州南部15cm。③ 波浪(明日まで)：北海道7、東北・北陸6、伊豆諸島・近畿・中国・九州南部・奄美・沖縄5、その他広い範囲で3～4m。④ 高潮(明日まで)：北日本では注意報基準を超過する所がある。

### 5. 全般気象情報発表の有無

「大雪と暴風雪及び高波に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図